

学校経営方針 子供一人一人のよさを認め、自ら伸びようとする力を引き出し、自己実現の喜びを味わわせる質の高い学校教育

児童の実態 個人差はあるが、「主体的・対話的で深い学び」に向けて、見通しをもって学習に取り組める児童が多い。

研究主題

主体的・対話的で深い学びの実現 ～各学年の実態に即した指導の工夫～

学校教育目標より

- 学ぶことに喜びを感じながら、生きて働く知識・技能を身に付け、自分らしい考えをもって行動する。
- 自分の考えを伝えたり、他者の考えを受け入れたりしながら協働して学び、その過程を大事にする。
- きまりを守り、自他を尊重しながら協力して目標を果たす。

目指す児童像（3つの柱から）

- 主** 学ぶことに興味、関心をもち、その事柄や課題に、自分事として取り組む。
- 対** 自己の考えをもち、他者との協働的な関わりや事物との相互作用を通して、学びを多角的に上げていく。
- 深** 対象となる事柄を詳しく知ったり、課題の解決を探究的に進めたりすることで、自己の学びに意味付けや価値付けを行い、次の学びにつなげる。

授業改善の視点（これまでの研究から）（R3）協働的な学びを通して自己の考えを深め広げる、（R4）振り返り、表現する活動の充実、（R5）振り返り活動の充実と評価の工夫、（R6）教科横断的な学びを生かした振り返りと評価の充実

	低学年	中学年	高学年
授業改善に向けた学習指導構想	① 主体的な学び		
	・「めあて」と「見通し」を区別して、自分の考えを言えるようにする。 ・具体物の操作など、体験的な学びを充実させる。 ・教科横断的な指導の視点をもち、教師が児童の学びをつなげて示す。	・「めあて」に対する自分の「見通し」を表現できるようにする。 ・外部と連携した学びを充実させる。（地域中心） ・教科横断的な指導の視点をもち、児童がこれまでの学びを生かせるように働き掛ける。	・「めあて」に対する自分の「見通し」を表現し、学びの進め方を自分たちで設定できるようにする。 ・広く外部と連携した学びを充実させる。（地域、海外） ・教科横断的な指導の視点をもち、児童が習得した知識・技能を活用できるような課題や学習の流れを設定する。
	② 対話的な学び		
	・学び合いの過程に、必ず対話的な活動を入れて、児童が十分に話し合いを体験できるようにする。	・児童が、様々な形式や人数での話し合いを体験できるようにする。（シンキングツールやホワイトボードを対話のツールとして活用する）	・話し合い方を、児童が選べるようにする。 ・児童の発言を、教師がファシリテートしてつなぎ、話し合いを板書などで可視化する。
	GIGA を、考えを相互交流するツールとして活用する。		
	③ 深い学び		
	・「まとめ」を丁寧に行った上で、児童が「振り返り」に取り組めるようにする。	・対話的な活動を通じた自分の「見通し」に対する「振り返り」ができるようにする。	・学びの過程を踏まえて、自分の「見通し」に対する省察を「振り返り」に書けるようにする。
	「振り返り」から児童の考えの広がりや深まりを見取るようにする。		